

博士学位論文審査報告書

大学名	早稲田大学		
研究科名	スポーツ科学研究科		
申請者氏名	望月 拓実		
学位の種類	博士（スポーツ科学）		
論文題目	中学校体育授業における外部指導者の有効性と導入方法の検討：現代的なリズムのダンス授業を事例として Introduction Method and Effectiveness of Outside Teacher for Physical Education in Junior High School: A Case Study on Modern Rhythm Dance Class		
論文審査員	主査	早稲田大学准教授 作野 誠一	博士（学術）（金沢大学）
	副査	早稲田大学教授 原田 宗彦	博士（Ph.D.）（ペンシルベニア州立大学）
	副査	早稲田大学教授 友添 秀則	博士（人間科学）（早稲田大学）
	副査	早稲田大学教授 木村 和彦	

本学位申請論文は、中学校ダンス授業における新たな外部指導者導入方法について検討したものである。中学校体育におけるダンス授業の必修化にあたっては、教師が十分な指導をすることができないという問題が発生している。かかる問題を解決する方法の一つとして、外部指導者の導入が提起されてきたが、これについては、人材の問題（導入基準）、指導の問題（指導効果）及び財務の問題（指導報酬）という大きく3つの問題が指摘されてきた。本論文は、ダンス授業における外部指導者の導入を円滑に行うため、上述の問題点に対する解決策を検討し、新たな外部指導者導入方法を提案することを目的としている。そのために、以下に示す3つの下位課題が設定されている。

1. 適格性・妥当性を判断するための「資格」に着目し、学校体育の観点から資格内容を分析すること。
2. 外部指導者を用いた授業と用いていない授業を比較し、外部指導者導入の効果を測定すること。
3. 自治体以外の組織が外部指導者の報酬を支援する方法を検証すること。

第4章（研究I）では、指導資格を付与しているダンス団体における活動内容等の整理を通じて、学校体育に対応していると考えられる2つの団体を抽出してインタビュー調査を行っている。そして、その結果から各団体の特徴を整理し、ダンス授業への適応可能性に言及している。ダンス団体の活動内容等の分析過程においては、先行研究でも指摘されている、名称のみ学校体育のダンスに対応しているような指導資格も確認されたが、結果として抽出された2団体においては、研修等を通じた教育委員会とのつながりがあることや文部科学省の後援事業として付与されている資格であることが明らかにされた。また、当該資格の取得

者は、学校現場において実際に指導機会を得ている実態も確認された。

第5章（研究Ⅱ）では、外部指導者導入の有効性を検証するため、先行研究の検討をもとに作成された授業プログラムを実施し、導入の有無による生徒の授業評価の違いについて検証がなされている。分析の結果、当初予想された技能評価の違いはみられず、創作部分の評価において違いがみられた。また、外部指導者を導入した授業を実施し続けることによって、教師の指導能力が向上するという効果も明らかにされた。

第6章（研究Ⅲ）では、新たな外部指導者の導入方法を実験的に実施し、仲介組織（資格付与団体）の活動を支える支援組織（企業）に対する提供価値を、生徒のブランドコミットメントの変化から検証した。分析の結果、ダンス授業の支援組織（スポーツメーカー）に対する生徒のブランドコミットメントが向上し、仲介組織の活動を支えることによる価値内容が示された。また、たんに学校内マーケティングを行えばよいというわけではなく、外部指導者を導入した授業による「楽しさ」の評価が高い授業を行うことが重要であることが示唆された。このように、仲介組織を介して外部指導者の報酬を支援するという方法は、学校運営方式における財務の問題を解決しつつ、支援組織への価値も提示することができる方法であることが示されている。

第7章では、本論文の総合的な考察を行っている。ここでは従来の外部指導者方法における問題点を再度提示したうえで、本論文における3つの研究を通して実証された新たな外部指導者導入方法の過程を整理している。そして、「支援組織」「仲介組織」「外部指導者」という3つのアクター間における問題がすべて解決されたときに、はじめて新たな外部指導者導入方法が機能することを示している。

従来の外部指導者研究の多くは、導入効果や導入事例の紹介が中心となっており、導入方法に関する検討は十分に議論されてこなかった。運動部活動における外部指導者研究においても、外部指導者を円滑に導入するシステムづくりの重要性についての論及はあるものの、実際にシステムとして機能させることをめざした実証研究はこれまでのところみられない。その意味で、本論文は外部指導者の導入方法を、人材、指導、財務という異なる3つの視点から検討し、これらを統合する研究枠組のなかで実施可能性の高い導入方法を提案した点は評価に値する。一方、本論文で提起された外部指導者の導入方法はあくまでも中学校のダンス授業を対象としたものであることから、他種目・他教科に即座に適応可能とはいえないものの、現在、中央教育審議会が提唱している「教育サポーター」あるいは「学習コーディネーター」などの基本的な考え方とも合致する点が認められることから、他種目・他教科等への適応に向けた政策の具体的実践における先駆けとしても一定の意義が認められる。

さらに、本論文は中学校ダンス授業を対象として現場への具体的な示唆を試みた研究であるが、理論的にはスポーツ教育学とスポーツマネジメントの研究領域を架橋する萌芽的研究としても位置づけることができる。こうした点にも本研究の意義が認められる。

以上より、本論文は、博士（スポーツ科学）の学位を授与するに十分値するものと認める。

なお、本論文の内容に関連する学術論文等は下記の通りである。

望月拓実・作野誠一・木村和彦（2014）中学校ダンス授業における外部指導員導入に向けた検討：ダンス団体が付与する資格に着目して．体育経営管理論集 6：1-17.

以上